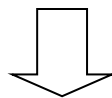


令和5年度 文京区立柳町小学校 授業改善推進プラン 3年

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、筆者の考えが分かり、それについての自分の考えをもつこと。 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 漢字を正しく丁寧に書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構造（はじめ・中・おわり等）を理解させ、筆者の考えが分かるようにする。それについて分かったことなどが書けるようにする。 文章を読んで、互いの感じたことや考えたことを交流する時間を設けることで、他者の感じ方や違いやよさに気付くことができるようにする。 漢字ドリルを活用し、毎日の練習で定着を図る。また、文や文章を書くときは、今まで習った漢字を正しく使えるように繰り返し指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学校のまわりの様子について、地形や土地の利用、交通の広がり、公共施設の場所と働きなどについて観察したり地図や資料を調べたりして、身近な地域の様子を理解すること。 文京区の様子、地域に見られる仕事について、調べ、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実際の写真や動画などの資料を準備することで、学習意欲を高め、自ら学ぶ姿を引き出していく。 一人一台のタブレットを活かし、調べ学習を充実させ、まとめる際に、資料を印刷したり、調べたことを発表するソフトの利用を取り入れたりしながら、主体的に学べるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の意味を正しく理解し、発展的な学習の場面において正しく立式すること。 学習したことを日常生活と関連付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の意味を確認して問題解決させたり、問題場面に戻って確認させたりする。 特に発展的な場面や単元のまとめとなる場面において、算数を身近に感じたり学んだことを生かしたりさせ、学んだことと日常生活を関連付けるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 疑問をもって実験に取り組み、気付いたことから結果を求め、考察につなげること。 根拠をもった実験を行い、適切な結果を求めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題」⇒「予想」⇒「実験」⇒「結果」⇒「考察」の流れをもって授業を組み立てていくようにする。 その実験や観察の意図を理解させる時間を取り、考えを深められるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにすること。 協力、公正などの態度で運動に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な発言を基にルールを変えたり、技能を向上させる方法を指導したりすることで、運動の楽しさを味わい、児童主体の学習となるように指導する。 準備、片付けの手順やルールの改善などで指導や話し合いが必要な際は、十分に時間を確保する
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中で、理解を深めたり、実生活につなげたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりでねらいについての自分の考えが深まったり、変化したりしたことが分かるような板書の仕方にする。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気付きを中心に黒板に記録していく。 実生活と繋げながら考えを深めることができるよう、ノートに記録をさせるようにする。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた資料を活用して、学習に臨めるようにすること。 I C Tに親しみ、適切な方法について知ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら探究した課題について明らかにして、図書やI C Tなどの情報を提供することで、学習に安心して臨めるようにする。 I C Tの使用方法について確認を行い、安全な使用方法について理解させていく。

外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と外国語との音声の違い等に気付き、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな色や食べ物、持ち物など自分の身の回りの物を表す語句を、イラストや写真などを提示しながら聞き取れるようにする。 ゲームや歌、チャンツを通して楽しみながら語句を習得できるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気を付けて、道具の使い方の技術の定着を図る。 様々な材料の経験をさらに積み上げていく中で、表したいことを自分なりに考えたり、深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の扱う際には、安全に留意したポイントを明確にし、写真とともに掲示する。また、電子黒板を活用し、ICT機器で手元を大きく見せたり、動画で使い方の手順が分かりやすいようにしたりする。 材料や用具の活用、導入の工夫をし、作り出す喜びの経験を積み重ねる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽構造の関わりに気付き、表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。 音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて気付くようにする。特にリコーダーの奏法を身に付けることができるように、一人ずつ聴く機会や発表の方法を工夫する。自分や友達の声や音を常に聴き合うことを意識するようにする。 音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを基に、互いの思いを共有しながら表現の工夫につなげるように声かけする。また、曲や演奏のよさを伝えるためにも言語活動を大切にし、児童の発言を生かした言葉や曲想を表す言葉を掲示し、音楽的語彙を増やす。 互いに聴き合ったり、友達と合わせたりする楽しさを味わえる活動を増やす。表現、鑑賞の活動をバランスよく行い、生活と音楽の結びつきを意識できるようにする。器楽ではスモールステップ、発展教材を用意し、個に応じた取り組みができるようにする。



	成果○ と 課題▼	
国語	<p>○教科書に書いてある文章を基に考えたり、想像したりするように促した。ペアやグループで「なぜそのように考えたのか。」について、教科書の言葉を根拠にして交流することができた。</p> <p>○個人の考えをまとめる時間、全体で考えを発表する時間を設定した。また、全体発表の前にグループでの活動を多く取り入れることによって、互いの感じたことや考え方を理解し、他者の感じ方などのよさに気付くことができた。</p> <p>▼漢字の定着には差が見られる。ドリル練習や各種テストなどで着実な力を身に付けることができるようにしていきたい。また、日記や作文など漢字を使う学習の場面で、習った漢字を使うよう指導する。</p>	
社会	<p>○総合の学習とつなげて学習を進めたことで、町探検をして見てきた実際の様子も思い浮かべながら考える様子が見られた。学んだことを新聞に書いてまとめることで、分かったことを確認しながら確実に学習の定着を図ることができた。また、新聞の発表を行い、友達と共有することで、学習の理解を深めた。</p> <p>▼社会科見学の実施が難しい場合も想定し、動画資料やオンライン見学などできることを今後も考え実行していく必要がある。</p>	

算 数	<p>○「分かっていることは何か、求めているものは何か」を丁寧に確認しながら繰り返し指導することで、求めているものを意識して立式する児童が増えてきた。</p> <p>○友達と考えの共有を行うことで、自分の間違いや友達の考えの良さに気が付くことができた。また、友達の考えをノートにメモするなど、意欲的に学習に取り組む姿も見られた。</p> <p>▼自分の考えを書くことはできたが、理由を考えたり、順序立てて説明したりすることが難しかった。既習事項から理由を考えさせたり、上手に説明できている児童を見本にしたりしながらより思考を深めていく。</p>
理 科	<p>○疑問をもとに予想を作り、実験につなげることで、児童が積極的に活動することができた。結果から考察につながるように、結果を分かりやすくまとめられるようにした。</p> <p>○結果や考察をまとめる時に時間を確保することで、児童の学びが深まった。</p> <p>▼結論から得られる理科的な知識を確実に獲得できるように、用語等を覚える時間も確保できるようにする。</p>
体 育	<p>○ゲーム領域において、チームで協力するだけでなく、相手も含めて「みんなが楽しめるルール」を作ることができ、児童主体の学習になった。</p> <p>○ワークシート等に技のポイントを載せたり、上手な友達の動きを見本にしたりすることで、児童のめあてが明確になり、技能が向上し、学習意欲が高まった。</p> <p>○準備や片付けのルールを明確にすることで、安全に活動することができた。</p> <p>▼みんなで話し合ってルールを作るには、体育の時間だけでは厳しかったのでその他で話し合う時間を確保していく。</p>
道 徳	<p>○授業の始まりと終わりで、ねらいについての考えが深まる児童が増えた。登場人物の心の変化が分かるような板書を工夫することで、振り返りでは自分事と捉えながら考えを深められるようになった。</p> <p>○ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中で、理解を深めることができた。</p> <p>▼振り返りでは、自分の考えを書くことはできたが、発言できる児童に偏りがあった。発表形態を工夫し、全員が自分の意見を発言できるようにしていく。</p>
総 合	<p>○ICTの積極的な活用により、児童の視点が広がり、探究的な課題に対して学びを深めることができた。</p> <p>○友達と協力して活動し、自分一人では深められないことも、友達と共同的に学ぶことで学習の深まりが見られた。</p> <p>▲ICTの活用が児童によって差があった。ICT支援員との連携を強化し、ICT活用の経験を増やし、学びを深められるようにする。</p>
外 国 語 活 動	<p>○歌やゲーム、チャンツなどを通して、外国語活動に慣れ親しみ、大事な語句を習得することができた。</p> <p>○動画の音声やALTの発音を聞き、日本語と英語の発音の違いに気付くことができた。</p> <p>▼難しいと感じてしまう児童もいたので、簡単な英語やジェスチャー、掲示物等を活用し、できる限り児童の不安感を取り除き、英語嫌いにならないように活動を工夫していく。</p>
音 楽	<p>○授業のねらいを明確にし、児童の学習の様子の見取りやワークシートでのふりかえりを通して個々の到達度と課題を概ね把握することができた。</p> <p>○歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりと年間を通してバランスの取れた学習内容に取り組むことができた。リコーダー学習も教材曲の精選と家庭との連携した練習等の手立てでより充実させることができた。</p> <p>▼歌唱やリコーダーなどの器楽における技能に個人差が大きく、継続的な学習活動と共に、個に応じた学びの支援を考えていく。</p>
図 工	<p>○体全体の感覚をつかうことを意識した題材にとりくみ、児童は各々の表し方を楽しんでいた。</p> <p>○鑑賞活動を通して、自分の作品の良さを伝えたり、友だちに説明したりしながら共に作品を楽しむ姿がみられた。</p> <p>▼自分のやりたいことを見つけることはできたが、どのようにすれば自分のイメージに近づけるか技術的な工夫で手が止まる児童がいた。技術的な工夫をみつけ、みんなで共有できるような場をもつようにする。</p>